

安定した生産の確保と 産地維持を目指します

■栽培面積減少が続く中、試験品種の導入に取り組み、限られた農地と労働力を有効活用しながら、安定した生産の確保と産地維持を目指します。大玉スイカは、出荷始めとなる3月の出荷数量が前年対比181%と大幅に増加。市場との連携による売り場の確保・拡大にも取り組み、高単価を維持しました。

■品種は、大玉「春のだんらんRV」を中心に「春のだんらんSP」「羅皇(らおう)ザ・スイート」。小玉は「ひとりじめ7EX」を中心に「BONBONリッチ」を生産。小玉は、4月の長雨の影響などから小玉傾向となり販売高が前年を下回りました。

■生産者の減少や気候変動など、栽培環境の変化により生産・販売と苦戦する中、販売高は前年対比98.7%で、9億6522万円を売り上げ、3年連続9億円を突破しました。



あいさつする
安武部会長



〈表彰〉 ※糖度と品質の優秀者を表彰 大玉スイカ

▽糖度:大島章▽品質:小山和彦、上野修一



小玉スイカ

▽糖度:清原啓喜▽品質:安武茂、工藤誠



新部会長に大谷さん



あいさつする
大谷新部会長

総会では役員改選があり、部会長に大谷恭生さん、副部会長に永松祐一さん、林祐一さんが就任。新体制で販売高10億円を目指します。



あいさつする
上田部会長

新設した人参選果場で 出荷量増大

■令和7年11月に新設した人参選果場の共選と南営農センターの個選を合わせて、出荷量5031t(前年比110.7%)、販売高4億9284万円(前年比69.9%)を売り上げました。高単価で推移した昨年産と比較すると販売高を下げましたが、生産者の努力と新選果場における選果処理能力の向上もあり出荷量は増加しました。

■秋冬ニンジン(R7・11月~R8・3月)は、大雨による発芽不良や土壌の締まりによる変形根の増加、生育期は極端な乾燥の影響による生理障害等の発生もみられ品質に苦戦しました。※出荷量3319t(前年比106%)販売高3億5031万円(63.9%)。

■春ニンジン(R8・4月~R8・7月)は、播種期である11月から翌年2月までの乾燥、12月~翌年2月までの低温等の影響もあり例年よりやや小玉での収穫となりましたが、反収量は昨年を上回りました。※出荷量1712t(前年比121.2%)販売高1億4253万円(前年比91%)。

新部会長に大村さん



あいさつする
大村新部会長

総会では役員改選があり、部会長に大津支部の大村真幸さん、副部会長に菊陽支部の合志和彦さんが就任しました。高温対策や栽培品種試験などに継続して取り組んでいきます。部会員戸数60戸。